

平成26年度
専門学校静岡電子情報カレッジ28期生
静岡福祉医療専門学校16期生

の学生諸君

Congratulations on Your Graduation! !

理事長・校長 中村 徹



平成26年度卒業生の皆さんおめでとうございます。

皆さんのキャリアデザインを形にすることができましたか？

皆さんは本学独自の人材育成教育に、産業界や医療・福祉界、幼児教育・保育等の第一線の各業界人の指導も受け、産学連携で実践的職業教育プログラムにより育成されたスペシャリストとして社会へ旅立つところまでできたのです。これからはしっかりと社会的責任自覚し、社会評価を得ながら、プロとしてその道の達人を目指すのです。

さて、皆さんが旅立つこの現代社会は、

平成23年3月11日14時46分に発生した東日本大震災で2万人弱の方が逝去され、4年が経った現在でも10万人弱の方が避難を強いられている。(国が定めた集中復興期間5年間)

様々な思いをもち、この悲劇的な惨禍を体験して生き延びることができた私たちは、本学園の創設者の教えにもある「**生かされていることの意味**」を自らに問いかけながら、「今の困難」を乗り越え、「より良き未来」を創造していくことで、復興、そして日本再生に向けて、力を注ぐ義務がある。特に、可能性を秘めた若き皆さんには、今後、人間は自然の脅威にどのように向き合い、復興・再生にどのように寄与していくのか、そして困難なこの時代にそれぞれが自覚的に何をしていくのかが問いかけている。

この現代社会が、国内的にも国際的にも大きな試練の時期に入っていることは、皆さんも感じているし、よく耳にすることと思う。国内を見ると、大震災からの復興、エネルギー不足への対処、少子高齢化のもとで人口減少に超高齢化、国の力といわれる生産年齢人口の減少、社会保障の抜本的改革、TPPの対応など、切羽詰まった真剣勝負が求められている。

皆さんはこれまでの学校生活で、様々なことを学びかつ研究を行うことで、考えを深めるとともに、その考え方にも、解決のプロセスにも多様性があることを学んで来た。

今、我々が社会のためになる行動がとれるようになるには何が必要なのか?それは『**他人の視点でモノを見て、モノを考える**』ということです。それにより自分自身をもっと知ることができると同時に、他人との連帯を築き上げ、社会的課題を解決することができるようになる。

そして、より重要なのは、一人ひとりの視点がどれが正しいかを決めることではなく、自分とは異なる他人の視点を認めるという「**多様性の価値観を共有すること**」なのだ。

さて、本学の平成26年度において、2CW大塚(女性)会長、2ID有ヶ谷および2TW下田副会長等役員の学生諸君、学生会(学生自治会)運営ありがとうございます。春・冬学生スポーツ大会、我道祭(学園祭)等大変楽しませてもらったし、友人の和を広げ、友情を深めることができました。各イベントを企画・実行した苦勞、責任、達成感や充実感は必ずや君たちの人生の中で活かされます。

本学就職活動においては、福祉はあと1名で就職内定率100%と創立以来16年間完全就職実績を継承しそうである。電子は未内定者があと2名いるが、創立以来28年間続いた就職決定率100%を目指し、最後まで諦めずに学校あげて頑張ろう!!

そして、学生生活の集大成:「**建学の精神**」の具現化となった「卒業研究発表会」・「**ケアスタディ発表会**」において、「時代に即した、将来に向けた研究テーマ」での立派なプレゼン、ドキュメントに来賓だけでなく教職員も感動した。今年も大成功であった。

特に、今年は電子IDのゼミ活動発表であった「産学連携プロジェクト:FM島田様との連携によるオリジナルキャラ&HP制作、FMラジオ番組制作」チームが、平成27年3月16日17時30分から15分間**生ONエア**。(読売新聞社の取材あり)授業では体験できない経験をさせていただき心から感謝です。

また、平成24・25年度文部科学省中核人材育成の戦略的推進事業「ゲーム分野産学連携型中核人材養成推進プロジェクト『GCS2014』(企業も参加)、このハイレベルなコンテストにエントリーして2年連続**企業賞**を受賞した。これも大きな自信となった。

本学のもう一つの教育方針である『**地域に開かれた専門学校**』の活動として、福祉医療では病院・福祉等の「ボランティア」、「**レクリエーション**」等の活動において、今年も地域の方々との触れ合いを通して高い評価をいただいた。

これらの成果は、来年度、後輩たちが継承し、より高めてくれるものと確信している。

また、運動部の対外成績では女子バレーボール部が静岡県専門学校大会で頑張ったがリベンジならずの3年連続の**準優勝**。

「海外研修・修学旅行」はアメリカで11月に電子は西海岸シリコンバレー、12月に福祉はハワイで最先端テクノロジーと異文化に触れ、国際的視点に立つての有意義な研修を積むことができ、貴重な体験をさせていただいた。必ずや今後の社会生活の中で大いに役立つ経験であり、日本の良さを強く感じ、友人との絆もより深まり、これも感謝です。

I was born.Keep alive.「人は、生まれ、生かされている」、
「人は誰もが、無限の可能性を秘めている」ゆえに「日本人としてのアイデンティティを持ち、仕事を通して自己実現を図る」と職業教育を熱い心で教え、「人づくり60年」の生涯教育者であった本学園創設者中村忠雄学園長先生の教えを卒業後の社会生活の中でも活かし、「**りっぱな日本人**」になっていただきたい。

これから社会に出ても、常に何事に対しても、日々「**前向きな気持ち**」を忘れずに、「**試行錯誤**」の中から「**自己実現**」を図り、「これだけの事をやったんだ」という「**自信**」と「**誇り**」を持って、君たちの時代を築いてください。

そして、たまには学校に寄って近況報告を楽しみにお待ちしております。それでは、健康には十分留意され、

Bon Voyage!

君たちの新たな旅立ちに、心より幸多きことを祈る!

教頭・教育部長 有賀 浩

卒業おめでとう!

地球上に止まらず、宇宙までもがネットで結びつけられ、もはや「**グローバル化**」という言葉も当たり前になってしまいました。インターネットユーザー数は20億人を遙かに超え、各種SNSユーザー数も数億人を数え、トラフィック量も日頃使う単位では表しきれないほどです。バックボーンは更に高速化を目指し、誰もが当たり前前にクラウドを利用、ビッグデータの活用も加速しています。

そんなネット社会の激流の中でプロフェッショナルとしての人生を歩み始める卒業生の皆さんですが、何も恐れることはありません。本学の「**全人教育**」を通して身につけた、元気よく笑顔で心から湧き出す「**挨拶**」をすることで、きっと明るい未来を築き、そして幸せになれるはずですよ!

いつまでも夢を失わず、確かな信念と技術を人生の軸とし、校訓「**技術は力なり、我は我が道を行く**」、仕事を通して常に自己を成長させて行って下さい。



進路室長 橋野 幸男

ご卒業、おめでとうございます。今後の職業生活で大切にしてほしい「3つのM」を、某シンクタンクのモットーを参考に述べます。

一つ目のMは、「Myself」です。皆さんそれぞれの「専門性」を磨き続け、同時に、「健康」に留意して、生き生きとご活躍ください。

二つ目は、「Market」、つまり「顧客志向」であれ、ということです。そして、更に広く「社会」全体の動向に目を向け、携わる仕事の価値・社会的存在意義を考えていってください。

最後は、「Mutual Respect」です。社内外の様々な人と、「お互いを尊敬し」刺激し合い、優れたチームワークを発揮してください。

関連して、「自分にとっての『取締役会』をつくりなさい」という言葉を添えます。皆さんの日常を見守ってくれる先輩などアドバイザーを数人見つけて、彼らに定期的に自分の成長とキャリアの進展をチェックしてもらおう、ということです。

皆さんが、本学の教えである「自己実現」の途を邁進するよう願っています。

**事務長 寺田 剛敏**

皆さんが生を受けてから20年以上もの時間が経過しました。皆さんは、バブル経済が崩壊し、経済も長期にわたって低迷する中、恐ろしいほどの勢いで変化する時代に合わせてたくましく成長してきたはず。そして自らの将来を切り開くべく本学に入学して、多くの仲間と共に技術や知識を身に付けてきました。

皆さんはこれから実社会という海に船出して行かなければなりません。今までは、社会に庇護されてきた面もありました。しかし、これからは皆さん自身が社会の最前線で待ち受ける多くの困難に立ち向かっていかなければなりません。辛いことや挫折そうになったら、本学で頑張ってきたことを思い出し、立ち向かってください。山を一つ越えるごとに皆さん自身が大きくなっているはず。それを繰り返すことで、皆さんは必ず各々の目標を達成することができますはず。

皆さんのこれからが幸多からんことを祈念します。

**各クラス担任の先生方より****医療情報システム学科3年****ICT情報システム学科・ICT情報デザイン学科2年担任 早崎 賢治**

アップルの創業者、スティーブ・ジョブズの言葉「他人の人生を生きたりして無駄に過ごしてはいけない」を贈ります。これまで周囲の期待に応えようと、無理をして頑張ってきた方も多いと思います。しかし限られた人生を、他人のご機嫌をとるためだけに費やすのは、とてももったいないことです。他人の意見に従って失敗したら、責任をとらなくて良いから楽かもしれませんが、それは自分の人生を生きていないということです。自分がやりたいと思ったことをやりましょう。遊んで暮らせということではありません。自らの内なる良心に耳を傾け、正しいと思う方法で家族や会社、地域や社会に貢献をしてください。そうすれば自分自身に価値があると確信でき、それは何よりの喜びとなるはず。他人から承認されることを求めるのではなく、自分の人生を生きて幸せになってください。

**総合福祉学科 3年担任 磯野 博**

「心の友」とともに志を持って！

3TWの皆さん、ご卒業おめでとうございます。今年度は肝心要の就職内定100%が年を越したり、卒業試験や出席状況が振るわない学生がいたり、何かと課題を残す卒業でした。とはいえ、各種の地域活動では引きつづき地域の方々から高い評価を得ており、更生保護という新たな活動を起こすこともできました。それらの集大成である卒業研究・ケアスタディー発表会では、発表内容もさることながら、見事な会の運営を先生方からお褒めいただきました。

もう思い残すことはないでしょう。本学の卒業生としての自信を持って胸を張って巣立ってください。

皆さんが活躍する現在の日本は、国内外に多くの不安定要素を抱えています。これまで正しいと思っていたことが否定されたり、隣人との仲が引き裂かれたり、どこに進み、何をすれば良いか迷うばかりです。そのようなときに皆さんを支えてくれるのは「心の友」です。

亡き学園長先生がよくいっておられました。社会に巣立ってからの友人にはどうしても利害関係が着いて回る。本当に困ったときに支え合える「心の友」は学生時代にしかできない。

皆さんは本学で身に着けた知識と技術と人間力に加え、この「心の友」を財産にして、是非とも志のある専門職として活躍してください。

期待していますよ！

**介護福祉学科 2年担任 花澤 つばさ**

今年度送り出す卒業生は、2年次から担任をさせていただきました。印象は「元気がいい」でした。実際にみんなと接していく中で感じたことは「せつかくいいものを持っているのに、もったいない」でした。この1年、友だちを思いやる気持ち・相手のことを考えることをしつこく伝えてきました。卒業が近づくにつれ、周りをみて行動する・友だち同士で支え合うことができ、ケアスタディ発表会・文化祭・学園祭では、クラスのことだけでなく他クラスの学生とも協力して行動できました。本当に嬉しかったです。

「早く卒業して」と言ってきましたが、本当は寂しいです。しかし、みんなが更に成長した姿をいつか見られることを楽しみにしています！！

子ども心理学科 3年担任 山本 佳郁代

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。本学で過ごした三年間、大変なこともたくさんあったのではないのでしょうか？学校生活や現場実習、ボランティアを通しての学び、そこで感じた喜怒哀楽の一つひとつが皆さんの心の糧となると思います。これから社会に出たとき『敬う心』を忘れずにいてください。あなたが今ここに生きてあることを喜び、すべての命の不思議に驚き大切にすることができる心を忘れずに。そして、自分と向き合い、その自分に温かく時に厳しくすることを始めて、豊かな人生を歩んでください。

皆さんのご活躍、幸せを心からお祈りしています。

**医療情報秘書科 2年担任 齋藤 秀樹**

卒業おめでとうございます。

皆さんは、本学でのすべての学園生活を通し“社会人になるために必要なこと”、“働く事の意義”、“専門分野での実践的な基礎知識”、“職業人としての学ぶ力”など多くのことを学ばれました。資格検定試験、卒業研究や就職活動など大変なこともあったでしょう。そうした中で、私は皆さんに、ただ『頑張れ！』としか言ってこなかったように思います。「頑張れることがあること」、それは大変幸せなことだと思います。真剣に取り組んだことが多ければ多いほど皆さんの成長につながっていることでしょう。

卒業は、決してゴールではありません。これからが本番です。社会に出てからの皆さんの活躍を期待しています。